

告 辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。希望に満ちて動画を見ておられる新入生の皆さん、また、これまで受験生を支えてこられたご家族をはじめとする関係の皆様に対し、帯広畜産大学を代表して心よりお祝いを申し上げます。本来であれば、大学役員をはじめ全学の教職員に加え、本学同窓会長などのご来賓、さらに、ご家族などのご参加のもとに入学式を挙行しお祝いするところですが、新型コロナウイルス感染症に対する危機管理上の判断で入学式を開催せず、この様なかたちで私からのメッセージをお伝えすることを大変残念に思います。苦渋の決断ではありましたが、皆さんの健康面を最優先しての判断であることを、ご理解くださいますようお願いいたします。

木々は越冬に際し生命力を冬芽に蓄え寒さに耐えます。その試練があつてこそ、春の訪れとともに葉を茂らせ花を咲かせるのです。「受験」を木々で言う冬の試練とすると、今、まさに皆さんは蓄えていたエネルギーを爆発させる時であり、爆発させるに相応しい本学に入学されました。皆さんは、さまざまな思いを胸にこの日を迎えていることと思います。入学を迎えられ、希望に満ちた皆さんに、あえて、「入学試験は長い人生から見ると、その時の限られた能力に対する評価に過ぎない」こと、とともに多くの偉人と呼ばれる人々が、自分の能力を発揮する場を見つけられず、それまで「凡人」だった人が、その後、能力を発揮する場を見出し、偉業を成し遂げたことが多いことをお伝えしたいと思います。

そうした意味から、今日、本学に入学する皆さんには、これまでの学力の善し悪しに基づく考えをリセットして欲しいと思います。大学は、これまでの「与えられる教育」では見えなかった能力を開発する場へと大きく変化します。大学では、高度な知識を教授することは言うまでもありませんが、皆さんには教授された知識を身に付けることのみで満足することなく、自由な発想で先生達と議論し、学ぶことの広さと深さを自ら拓げる自由があります。探究心

を持って議論することこそが、大学における勉学の神髄です。そうした議論を通し解決しなければならない課題を見出し、課題の背景を自ら探求することによって、自分で考え解決策を見出す能力が開花していきます。実学を基調とする教育を実践する本学の特徴として、実習が多く、学生と先生の距離が近いことが挙げられます。本学には、自ら調べ学ぶための素晴らしい図書館が改修オープンしました。疑問を放置せず、自ら課題を解決するために大いに図書館を利用し、そして先生に疑問をぶつけてください。本学は皆さんの自己問題解決能力の開発を全面的にサポートしていきます。

冬が長く寒さの厳しい十勝ですが、日に日に陽の光は暖かさを増し、間もなくすべての植物が一斉に芽吹き、生命感のあふれる素晴らしい季節になります。生協の周りでも春の訪れを喜ぶリスたちの姿を見ることが出来ます。新入生の資料を見ましたところ、今年の入学生の約67%が北海道外の出身者で、関東以西の入学者が60%でした。こうした北海道の自然環境へのあこがれも皆さんが本学を目指した理由の一つだったのではないのでしょうか。

本学は、西には、サホロ岳から襟裳岬へと続く日高山脈、北には、北海道の最高峰である旭岳を有する大雪連峰を見渡せる十勝に位置しています。それらの山々のすそ野は、十勝川に沿って南へ太平洋沿岸まで広がる十勝平野を形成しています。この自然環境が織りなす気候は、十勝の基幹産業である畜産と畑作の発展に大きく寄与しており、十勝が日本の食料倉庫と言われる所以となっています。そして、何よりも大切なことは、地域の基幹産業と、本学の教育研究分野が一致していることです。つまり、本学は「獣医学・農学・畜産科学」を学ぶのに最高のロケーションにあることを意味しています。日本の食料生産の中心地として「生産から消費まで」一貫した環境が揃う十勝に位置する本学は、我が国唯一の国立農学系単科大学です。農学に関連する領域は生活の基盤であることから、本学のミッションを「『食を支え、暮らしを守る』人材の育成を通じて、地域および国際社会に貢献すること」としています。本学は、昭和16年に前身

となる帯広高等獣医学校が創設され、今年で79年目を迎えます。創設以来、これまで約1万6千人余りが本学で学問を修め、国内外の「生命、食料、環境」の分野で多彩な活躍をしています。皆さんも、本学の特徴を活かした目標に向かって勉学に励んでいただきたいと思います。

現在、食料生産分野に限らず、多様な分野において農業が注目されており、21世紀最大の成長産業とも言われています。また、現代社会が抱えている地球温暖化、食料安全保障、環境問題、エネルギー問題、口蹄疫といった感染症など、地球規模問題と「農業」は密接に関連しています。農学、畜産学、獣医学の学術貢献による地球規模問題の解決は、人類にとって喫緊の重要課題であると言えます。先程から、本学は「実学」を基調としていることを述べてきました。「実学」とは、実証性に裏付けられ、実際に生活の役に立つ学問を意味します。食料生産だけでなく、先に述べた現代社会が抱えている地球規模問題と「農業」は密接に関連していることを念頭に置き、皆さんには広い視野を持って勉学に取り組んでいただきたいと思います。

本学が実学を基調としていることを強調してきましたが、基礎研究も重要であることは言うまでもありません。専門学校と異なり、研究を基盤とした高度な教育をするのが大学です。本学は、獣医学課程、畜産科学課程の上に、獣医学専攻と畜産科学専攻の2専攻からなる、博士課程まである大学院畜産学研究科を有しており、本学の基礎研究は、世界でも最先端を走っていることを申し添えます。つまり、本学には研究者になる道も大きく広がっていることを強調したいと思います。

皆さんには本学で学修し、それを基に広がる大きな未来があります。入学した課程によって学修する内容は異なりますが、アクティブな時間を送ることによって、自らの手で未来を切り拓いてもらいたいと思います。アクティブに活動すればするほど大学生活は豊かになります。勉学の他にも、クラブ活動やボランテ

ィア活動など課外活動にも是非積極的に参加してください。講演会や音楽会など文化的イベントにも積極的に足を運び、多様な人々の考えや文化に触れることも大切です。そうした考えから、四年前からリベラルアーツ（教養）講演会と銘打ち、本学の学生や地域の方々をも対象にノーベル賞受賞者にご講演いただいています。今年にはノーベル物理学賞受賞者 梶田隆章先生に「神岡の地下から探る宇宙と素粒子」という題目で7月にご講演いただくことにしています。楽しみにしてください。

皆さんが、専門知識や技術を身に付けるだけでなく、志を高く持ち、課外活動など多くの事にチャレンジし、本学に身を置く間に「光り輝く人間に成長すること」を祈念するとともに、全面的にサポートすることをお約束し、告辞とします。

なお、新型コロナウイルス感染症が新学期からの講義にどのように影響するか、先の見えない状況ですが、皆さんの勉学に支障のないよう最大限の努力をしていきます。

令和2年4月4日

帯広畜産大学長

奥田 潔